

修了シンポジウム(7/18)

「働くということ」

～若手組合リーダーからのメッセージ

パネリスト

連合 会長 高木 剛

連合大阪 女性委員会委員長

大阪ガス労働組合 中央執行委員

連合大阪副会長 株本 佳子

関西電力総連 特別執行委員

教育文化協会 ディレクター 岡崎 信勝

コーディネーター 同志社大学 准教授 三山 雅子

はじめに

1. 「働くということ」をどう捉え、どう考えるか
～自身の社会人生活、労働運動経験を振り返って

(株本)

(岡崎)

(高木)

2. 組合リーダーは現場で今どのような課題に直面しているか

(株本)

(岡崎)

(高木)

3. 連合寄付講座を受講して感じてきたこと、学んだこと

(普天間)

(高木)

4. 若手組合リーダーからのメッセージ

(株本)

(岡崎)

さいごに～高木会長から同志社大学の皆さんへのメッセージ

(高木)

以 上

【各パネリストのプロフィール】

株本 佳子 連合大阪 女性委員会 委員長、大阪ガス労組 中央執行委員、連合大阪 副会長

大阪府出身。生まれてから結婚まで、地元(門真市)にどっぷりと根を生やし逞しく育つ。

1984(昭和59)年 大阪ガス(株)入社

約20日間の入社時研修の後、石炭からガスを製造する、いわゆる「コークス炉工場」に配属となる。当時は、工場への配属発令を受けると涙ぐむ女性が多かった中、入社式における社長の言葉で、「同じやるなら楽しくやろう」を座右の銘とし、石炭の粉塵と太陽を体いっぱい浴びて逞しく働く。また、ここでの組合支部委員長(現在のUIゼンセン同盟 副会長)・書記長(現在の大阪ガス労働組合委員長)との出会いが、後に自分が組合役員になるきっかけとなった。

1990(平成2)年 ガス製造原料が石炭から天然ガスに移行することに伴い工場閉鎖 ～初めての人事異動で本社人事部へ転勤

6年間過ごしてきた職場が、石炭工場としての27年間の使命を終え閉鎖されることとなり、約500人の従業員が配置転換となる。自分自身は、ほぼ全員の人事異動処理や工場内での後片付け等を済ませた後に異動。

新たな配属先は本社人事部。採用・研修に関わる業務に就く。「なんで人事部?」と驚くも、「とにかく人が好き」という性格から、上司が人事部に配属させたのだと、後に聞かされる。その後、勤続年数を重ね、ベテランの域に達したことに加え、社内教育担当等の経験から「やたらと顔が広い」存在となる。

1997(平成9)年 2度目の転勤～地区現場の中でも最大規模の組織に配属

地区現場でも最大規模を誇る「北東部事業本部」に人事異動。業務は日々想像できない様々な出来事が起こり、慌しく毎日が過ぎるも、「やっぱり現場はええなあ」と、多くの従業員と接する機会が多い職場を新鮮に感じながら日々を過ごす。

そんな中、2002年、突然上司から会議室に呼び出され、組合専従役員への就任の打診を受ける。ただ、この時点で既に、ほぼ外堀を埋められた状態であり、とりあえず、返答に3日間の猶予をもらう。家族会議で、夫が「組合の大変さは分かっているだけに、賛成できない」と、珍しく厳しい反応を示し、自分自身も悩み抜くも、最終的に、組合専従役員への就任を決断。ただし、夫については、現状ほぼ9割方の家事を担うことになっている。「家族の理解なくして現在の自分はあり得ない」ことを日々感謝しつつ、時々、そのありがたみを忘れてしまう…。

2002(平成14)年 定期大会で大阪ガス労組 中央執行委員に就任

大阪ガス労組としては女性専従役員の第2号として、初代女性役員が引いたレールを時々踏み外しかけながらも、自組織内の活動以外に、上部・外部活動(UIゼンセン同盟・連合他)を通じて、「ひとつの組織だけでは経験できないこと」を数多く経験し、現在に至る。自組織では福祉政策・調査・広報等を歴任。

2007(平成19)年 連合大阪女性委員会委員長、連合大阪副会長に就任

連合大阪女性委員会委員長の打診を受け、ご辞退するが、またも外堀を埋められ、受諾する。あわせて、連合大阪の副会長にも就任することに。

女性労働者を代表する立場から、行政の審議会委員等もつとめ、自組織だけでは見えにくい働く女性の課題も見えてくる。現在、大阪地方労働審議会委員、大阪府消費者保護審議会委員等をつとめる。

私たち働く者たちの現在の立場や処遇があるのは、これまで諸先輩方が築き上げてきた粘り強い労働運動の賜物であることを実感しながら、組合活動に邁進する日々を過ごしている。

岡崎 信勝 関西電力総連 特別執行委員、(社)教育文化協会ディレクター

和歌山生まれの大阪育ち（繊維業を営む需細企業の三男）。学生時代は水球部に所属、勉強はソコソコに、一日中プールでボールを追いかける日々を過ごす。

1994(平成6)年 関西電力㈱入社～労働組合には全く関心なし

「生まれ育った地元で貢献できる仕事がしたい」一念で、関西電力㈱に入社（岸和田営業所に配属）。今から思い起こせば、自分を温かく職場に迎え入れてくれたのは、労働組合役員の皆さんたちだった。ただ、労働組合そのものには全く関心なく、どちらかと言うと、うっとうしく面倒くさい存在だった。

1995(平成7)年 阪神・淡路大震災発生～復旧・復興業務に没頭

1月17日午前5時46分、阪神・淡路大震災発生。直後から被災地に長期派遣され復旧作業に没頭。電力供給に対する現場組合員の強い使命感に心打たれるとともに、働く仲間の輸の有り難さを痛感。「この会社に入って本当に良かった」と感じた誇りと喜びは、今なお私にとっての原点。

6月、三宮営業所に異動。大幅増員した現場の人事労務（評価処遇や人事異動、労働時間管理、採用、教育研修、安全衛生、被災従業員の支援等）や法務関係を担当。「とにかく現場に足を運ぶ」ことの大切さを学ぶ。寝食を忘れ業務に打ち込む一方、持って生まれた性格ゆえか、社内での衝突もしばしば。また、このとき本格的な労働組合との出会いを経験。

1997(平成9)年 関西電力労組本部執行委員(専従) に就任～“組合素人”から労働運動をスタート

「若いくせに偉そうな奴が神戸におる」との悪評があったかなかったか、ある日突然、「組合専従やってみいへんか」と持ちかけられる。「結構、面白そう…」と感じるも、一応、上司に相談。「絶対に引き受けろ」との予想外のアドバイスに組合の世界に飛び込むことを決断。全くのド素入のまま、関西電力労組本部執行委員に就任してしまう。

素人ゆえの怖い者知らずか、経営トップ層との労使協議デビュー戦で、現場出身者としての思いをストレートに伝え、凶らずも会社幹部を批判、その後の自分の逃げ道を失う羽目に。以降、職場対話活動や若年層の人材育成、組合組織機構の改革等に携わると共に、人事・賃金・福利厚生等諸制度の抜本改革など数々の労働協約改定交渉の責任者をつとめる。現場まわりで職場の洗礼を受けながら、先輩方から労働運動のイロハを学ぶ日々の中で、「労働運動の原点は職場」の精神がたたき込まれ、その後の自分の勤労観や労働運動観を決定づけられる濃密な5年間となる。

2002(平成9)年 参議院議員の公設第一秘書として永田町を経験～自分が所詮「井の中の蛙」だったことを痛感

自組織出身の参議院議員の公設第一秘書に就任。主に、国政選挙時の政権公約（マニフェスト）など民主党のエネルギー・環境政策の立案作業や、競争政策や知的財産保護、中小企業政策など経済・通商産業政策関連の法案対応、各種国政選挙活動に携わる。自らが「井の中の蛙」だったと、国政のスケールの大きさや奥深さ、怖さを思い知らされるとともに、国民一人ひとり、すべての働く者にとって、政治との関わりは避けて通れないことを実感。

2005(平成17)年 関西電力(株)本社法人営業グループに職場復帰、「浦島太郎」からの再スタート

悩みに悩んだ末、労働運動から足を洗うことを決断し、本社法人営業グループの役職として職場復帰。百貨店や大型ショッピングセンターからコンビニまで、主に流通業界のお客さまへのソリューション営業を担当。当初は「浦島太郎」の状態の日々を過ごすも、それまでのささやかな労働運動経験が大いに活かせることも。

2006(平成18)年 関西電力総連特別執行委員・電力総連特別執行委員として(社)教育文化協会に出向

「連合本部で働く話があるが、もう一度やってみないか」との恩人からの誘いに、再び悩み抜くも、「これも何かの縁」と労働運動への復帰を決断。産業別組織（電力総連）から連合本部に派遣、(社)教育文化協会に出向し現在に至る。大阪府社労士会所属の社会保険労務士も勤める。

高木 剛 連合 会長

1967(昭和42)年	大学卒業後、旭化成工業(株)入社
1969(昭和44)年	全旭化成労連調査 副部長
1973(昭和48)年	全旭化成労連 書記長
1977(昭和52)年	宮崎地方同盟 会長
1980(昭和55)年	ゼンセン同盟 労働政策局 労働政策部長
1981(昭和56)年	外務省入省
1982(昭和57)年	在タイ日本国大使館一等書記官 (労働界初のレーバー・アタッシュ)
1984(昭和59)年	外務省退職 ・ゼンセン同盟書記長付、 ゼンセン同盟常任執行委員、産業政策局長
1988(昭和63)年	ゼンセン同盟 書記長
1994(平成6)年	友愛会 副会長、連合 副会長
1995(平成7)年	連合 中央執行委員
1996(平成8)年	ゼンセン同盟会長
1997(平成9)年	連合 副会長
1999(平成11)年	友愛連絡 会長
2002(平成14)年	UIゼンセン同盟 会長
2004(平成16)年	友愛連絡会 会長
2005(平成17)年	連合会長に就任、現在に至る。

【主な公職】

2005年10月	財政制度等審議会 委員
2005年12月	法制審議会 委員
2006年11月	政府税制調査会 特別委員
2007年3月	成長力底上げ戦略推進円卓会議 委員
2007年7月	ワーク・ライフ・バランス推進官民 トップ会議 委員
2007年7月	公務員制度の総合的な改革に関する懇談会 委員
2008年1月	社会保障国民会議委員
2005年10月	財政制度等審議会 委員

ご参考資料

- ◆高木 連合会長 資料：「非正規雇用労働者の増加と日本の将来」（別冊）

- ◆株本 連合大阪女性委員会委員長、大阪ガス労組中央執行委員 資料

- ◆岡崎 関西電力総連特別執行委員 資料

- ◆「私の提言 第4回連合論文募集」入賞論文集より（別冊）
「CSR（企業の社会的責任）に関して労働組合のこれからを考える」
（普天間みほさん入選論文）

◆高木 連合会長 資料

「非正規雇用労働者の増加と日本の将来」……別冊

平成一九年度〈産業と人間〉別刷

非正規雇用労働者の増加と日本の将来

高木

剛

◆株本 連合大阪女性委員会委員長、大阪ガス労組中央執行委員 資料

- ・大阪ガス労働組合について
- ・連合 第3次男女平等参画推進計画

大阪ガス労働組合について

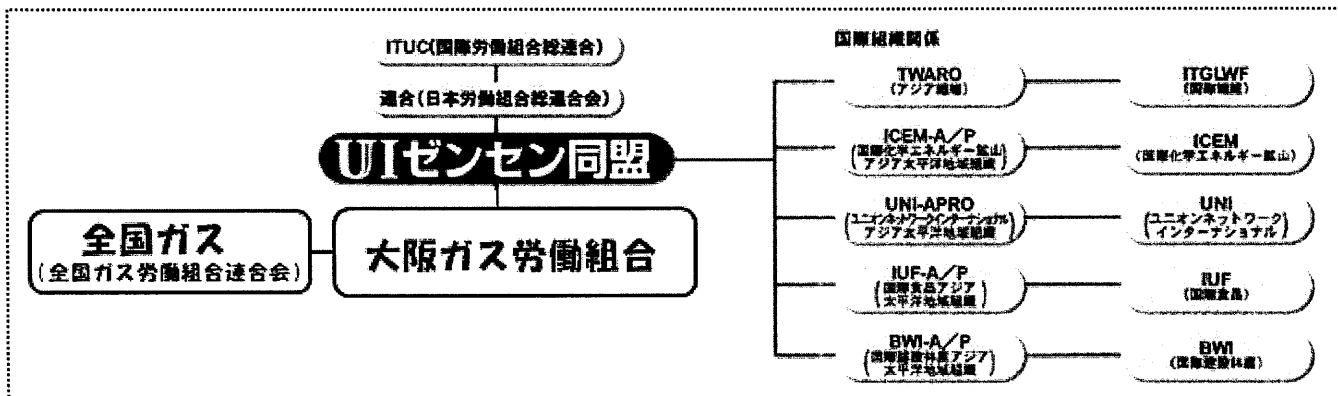
私たちの組合のおゆみ

終戦後の1946年に大阪ガス労働組合と大阪ガス職員組合の2つの組合がそれぞれ結成されました。その後、1つの企業に2つの組合があるのは望ましくないということで、組織統一への努力を積み重ねた結果、1973年に両組織が統一し、今日の「大阪ガス労働組合」が誕生しました。一人ひとりが互いに支えあい、大きな力になってみんなで課題を解決していくという労働組合の姿勢は、今も昔も変わりません。



みずさんの選挙で選ばれた代議員・費目が活動について話し合う大会・中央委員会の様子

- ◆ 大阪ガス労働組合は、大阪ガス(株)に働く仲間て構成する企業別組合(単組)です。
- ◆ 組合員数は、約6,000名。(2008年7月現在)
- ◆ 上部団体は、UIゼンセン同盟(組合員数:約100万人)で、同じガス関連産業に働く仲間て構成している産業別労働組合の「全国ガス労連」とは、協議会組織である「日本ガス労働組合協議会」としての取り組みを行っています。



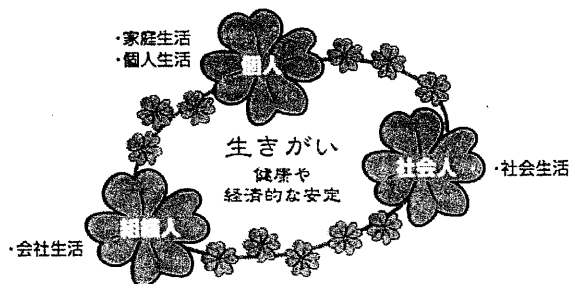
大阪ガス労働組合の活動

ういずゆるびジョン

活動の目的

組合員のしあわせ

私たち大阪ガス労働組合は、組合員やその家族が、健康や経済的な安定をベースに、「会社生活」や「家庭生活・個人生活」、「社会生活」のそれぞれの分野において、一人ひとりの「生きがい」が高まること「しあわせ」の実現だと考えます。そのために大阪ガス労働組合は活動を進めています。



〔活動の目的〕

組合員とその家族の
「しあわせ実現」

組合の役割

組合員一人ひとりが参加する
活力ある組織づくり

働きがいのある会社生活の実現

組合員とその家族の充実した
人生実現のサポート

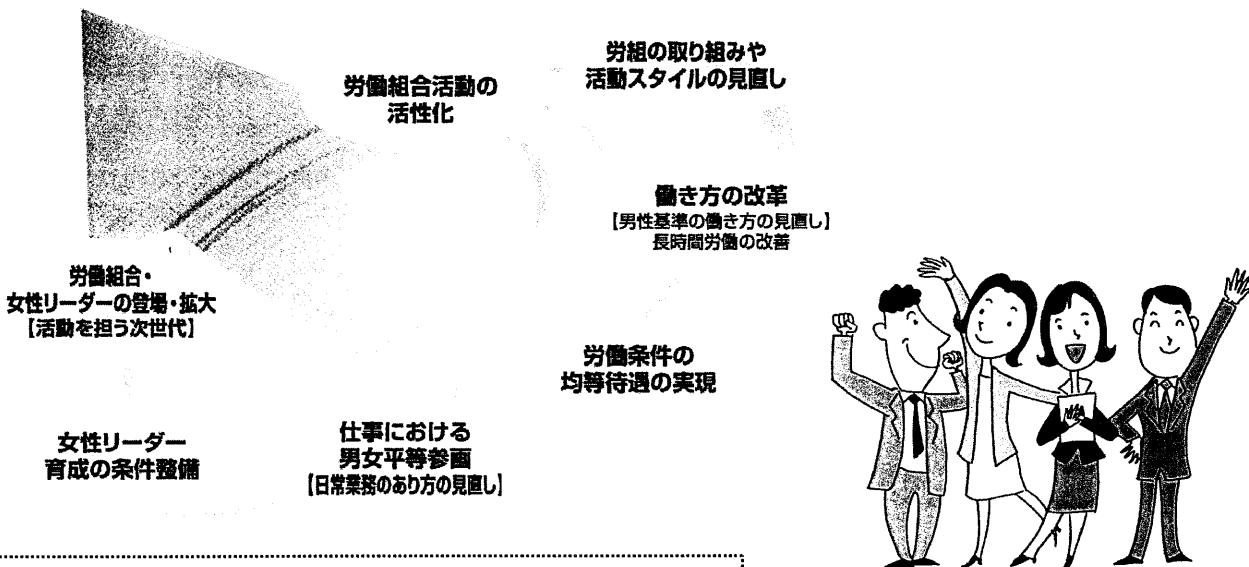
ゆとり・豊かさを感じ、
安心して暮らせる社会づくり

Action Plan 3

連合 第3次男女平等参画推進計画

仕事の場での
男女平等参画の実現

男女がともに仕事と
生活の調和を実現



統一目標	行動目標	運動方針へ平等参画を明記
	数値目標	女性組合員比率の女性役員 女性役員ゼロをなくす
計画期間	2006年11月～2012年10月 …2年ごとに進捗管理・見直し	

- 連合本部の取り組み
- ① リーダー養成講座を実施 (教育文化協会と連携)
 - ② リーダー養成講座の実効性のフォローアップの方法を検討
 - ③ 連合HPに、女性役員フォローアップシステムを構築
 - ④ 男女平等参画の取り組み事例等を集約
 - ⑤ 男女平等参画調査を実施し、進捗状況を点検
 - ⑥ 仕事の男女平等参画、仕事と生活の調和を含めたチェックシート等を作成
 - ⑦ 6月キャンペーン (男女平等月間における政策要請行動等)



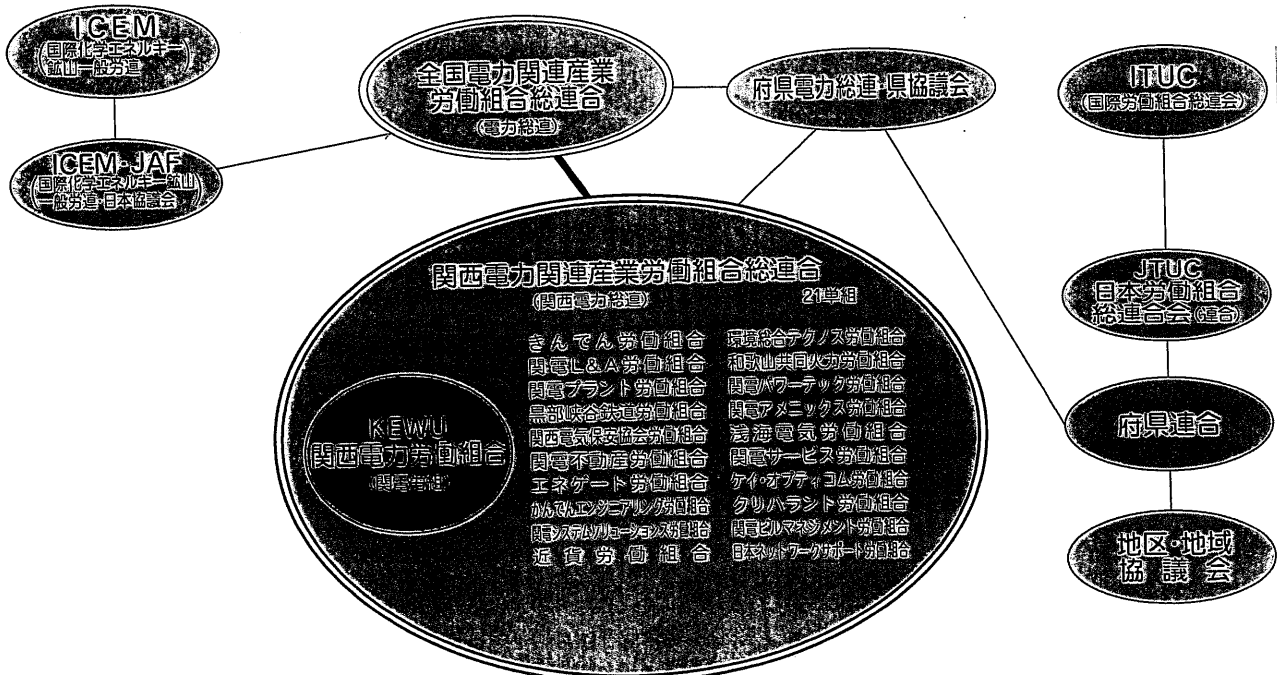
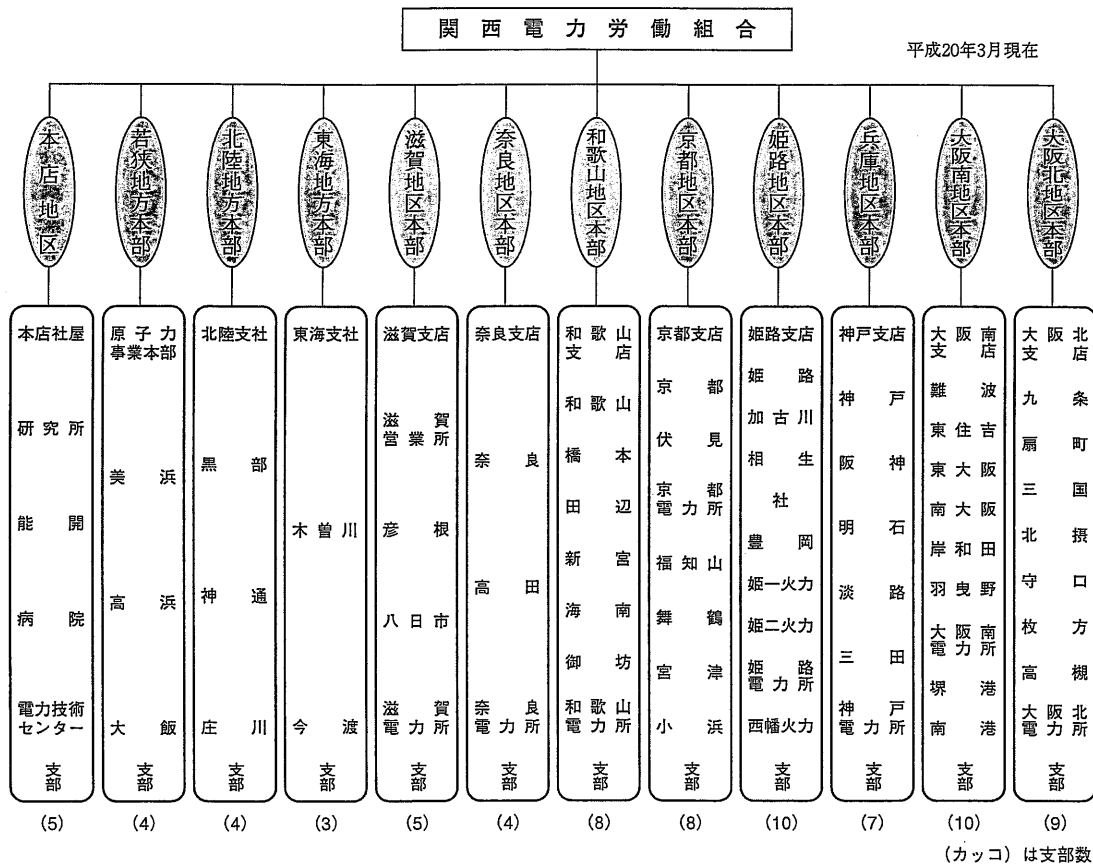
◆岡崎 関西電力総連特別執行委員 資料

- ・ 関西電力総連、関西電力労働組合について
- ・ 関西電力「実録 阪神・淡路大震災一応急送電までの7 days」より抜粋
- ・ 「ひとつのおにぎり」

ご参考①

関西電力総連、関西電力労働組合について

「関西電力労働組合」は、関西電力に働く仲間（社員、運輸職員、常用員、委託検針員・集金員、医務職員、e-スタッフ、運輸e-スタッフ、医務e-スタッフ）で構成する企業別労働組合（単組）です。組合員数は約19,000名（2008年5月現在）。また、発電設備や電気設備の工事・保守の他、交通、情報通信、サービスなど多彩な業種の関連産業で働く仲間とともに結集する「関西電力総連」は、関西電力労組の他、きんでん労組、ケイ・オプティコム労組、関西電気保安協会労組など21単組で構成され、組合員数は約33,000名（2008年5月現在）です。「関西電力総連」をはじめとする12の構成総連を全国大でネットワークし、日本の電力関連産業における唯一の産業別労働組合（産別）として組織しているのが「電力総連」です。「電力総連」の組合員は約21万人、加盟単組数は約230です。



関西電力「実録 阪神・淡路大震災—応急送電までの7days—」より抜粋

1995（平成7）年1月17日午前5時46分。阪神地域を襲った震度7の激震は、尊い人命を奪い、街をなぎ倒し、都市機能を支えるライフラインを壊滅させました。この「関東大震災以来の大惨事」のなか、関西電力はグループの総力を結集し、昼夜を徹し復旧作業を行い、地震発生から153時間後、応急送電体制を整えました。「街の灯り」を取り戻すため、死力を尽した関西電力総連の仲間。全国津々浦々から駆けつけてくれた電力総連の仲間。ボランティア活動に汗を流して下さった連合に結集する仲間たち。そして関西電力を温かく叱咤激励して下さったお客さま……。こうしたすべての人々の想いや活動は、私にとって、決して忘れてはならない貴重な財産です。そんな想いも込めて、応急送電完了から数日後に職場に届いた、あるお客さまからのお手紙をご紹介します。ぜひお時間のある時にご一読いただければ幸いです。

……応急送電完了から一週間余りが過ぎた2月1日、三宮営業所に一枚のはがきが届いた。宛名は「三宮営業所所長様・御一同様」と記されていた。神戸市灘区のお客さまから届いた、早期送電に対する感謝と所員への励ましのお便りだった。

その心のこもった文面に思わず目頭を熱くした丸野三明所長は、お客さまの名前だけを伏せてコピーをとり、営業所員はもちろん、ともに復旧作業に携わった関連会社の社員にも全員に配布した。応急送電が完了したとはいえ、本格復旧に向けた作業が休むことなく続く毎日。疲労も極限に達していた時だけに、そのはがきはまさに一服の清涼剤となった。

はがきを読み終えた所員たちはみな、生き返ったような表情を浮かべていた。眼に涙をにじませる者も多かった。「電気の復旧は必ず成功するぞ」。そんな所員たちを見ながら、丸野は確信を抱いた。この時ほど、電気事業に携わることの喜びを肌で感じたことはなかった。

<神戸市灘区のお客さまからのお便り>

この度は大変な災害に日夜ご奮闘いただきまして、心より感謝申し上げます。私は十七日夜、大多忙の中にお電話して悪いと思いつつも「近所は電灯がついているのですが……」と申し上げた者です。対応に出てくださいました方が、本当にいい方で実に丁寧なご応答をくださいました。その上、十八日朝わざわざお電話くださいまして「電灯はつきましたか」とのありがたいお言葉です。「いえ、外灯はつきましたが家はまだです」とお答えしました。

（中略）夕方近く電灯がパッとともり主人と手をたたきました。あまりのうれしさに不躰でしたが三階のベランダから「関西電力さん、ほんとにありがとうございます」と大声を張り上げました。別のお部屋の方も「ありがとうございます」、そこを通りかかった子どもも「ありがとう」と叫んでいました。「つきましたか」と会社の方。「ええ、もううれしくて」と申し上げると、にっこり笑ってすぐお帰りになりました。

暗がり余震におののき、寒さに震えておりましたが、今夜から明るい部屋で暖かく、ご飯にもありつけます。散らばったガラス片も掃除機をかけられます。ご活躍のおかげです。（中略）思うことを言い表せませんが、誠にありがとうございます。こういう時ですので、いつこれが着きますかわかりませんが、一言お礼申し上げたくペンをとりました。どうか皆様お体ご大切にご活動くださいませ。

「ひとつのおにぎり」(東北電力総連・ユアテックユニオン もんどろ たけお 門藤 剛夫さん：国土交通大臣賞受賞)

「電気屋さん、ありがとね。ごろうさま」

そう言ってニコッと笑い、差し出した手にはひとつのおにぎり。そのおにぎりの味は今でも鮮明に覚えています。

私は、電力系の設備工事業に従事するいわゆる「電気屋」です。私の会社は総合エンジニアリング企業として、電力設備工事・情報通信工事・土木建築工事・総合設備工事を行っており、地域社会の発展に貢献することを目指しています。

私の配属された部署は「配電部門」で、今年で入社五年目になりました。「配電部門」とは電力流通設備の中で電気を使用するお客様と最も近い配電線設備の施工・保守を行っています。

私は、普通科の高校を卒業後、電気に興味があった事もあり、大学では電気・電子工学科を専攻しました。小学校の頃に原子力発電所の見学に行った時、「電気とは人間が生活するうえでなくてはならないもの」と、その当時はただ漠然とはありますが、そう感じたことを記憶しております。入社以来、このことは常に頭の中にあり、「自分はライフラインの維持・構築の一翼を担っているんだ」という気持ちで今に至っています。

入社二年目の秋、衝撃的な出来事が起こりました。新潟中越大地震です。私にとってこの仕事をしていくうえで大きな決意を抱かせてくれた出来事になりました。

当時、勤務地が仙台であった私は、新潟で地震があったことをテレビのニュースで知りました。私の出身が新潟ということもあり、テレビに映る変わり果てた故郷の光景が信じられず、愕然としたことを覚えております。そんな時、会社から「新潟で地震があった。災害復旧応援で新潟に行ってくれ」との連絡がありました。私は故郷の為何かをしたいという一心で、迷う事はありませんでした。その日のうちに仙台を出発し、一路新潟に向かいました。途中、高速道路も震災の被害に遭っていた為、通行不能となっており、新潟に到着したのは出発して十四時間後の翌日の昼頃でした。

そこでまず私が眼にしたのは、激しく隆起したり陥没した道路、跡形もなく倒壊した民家、そしてそこに呆然と立ち尽くす被災した方々の姿でした。もちろん配電設備も大きな被害を受けていました。

そんな中、昼夜を問わず復旧にあたる仲間たちの姿がそこにはありました。本来疲弊しきっているはずなのに、その表情からは全く疲れなど感じさせず、「さあ、次行くぞ！」と次々と被害に遭った現場をまわっては復旧作業にあたっていました。そんな仲間たちの姿からはむしろ「気迫」さえ感じられました。

私もすぐに現場に向かい、復旧作業にあたりました。地震の大きな揺れにより壊滅的な被害を受けた配電設備や木の伐木など、次々と現場をまわっては復旧作業にあたり、その日の復旧作業は深夜にまで及びました。復旧作業を行っている最中にも、震度5程度の大きな余震が数回あり、作業を一時中断したこともありました。

そんな復旧作業が続く中でも、配電設備の被害の大きかった地域は夜になっても電気を送れる見込みがなく、灯りがともらず真っ暗なまま夜を迎える家が多々見られました。いつまた大きな余震が来るかわからないので、家の中にも入れず、車庫の中で毛布にくるまり、懐中電灯の灯りひとつで一晩を過ごす家庭が多くありました。そんな光景を目の当たりにし、「みんなが不自由のない生活を送ることが出来る今の世の中、光がないということはこんなにも不安で恐怖なことなのか。なんとか早く電気を送らなければ」という強い気持ちと使命感が掻き立てられました。

次の日も、その次の日も復旧作業は続き、長く停電していた地域にもようやく二日ぶりに電気が送られることになりました。私の会社の工事車両を見るなり、手を合わせ拝む方の姿も見受けられました。

そんな時、ある一軒の家の改修工事が終わり、そのお客様に工事が終わった旨の報告に行くと、「これ、電気が使えるようになって初めて炊いたごはんで作ったの。良かったら食べて」と、握りたてのあたたかいおにぎりを頂きました。震災に遭ってから、それまで食べる物もままならなかったであろうというその時に分けてくれたのです。私はその頂いたおにぎりを食べながら、人のあたたかさというものを感じ、何か熱いものが胸の奥からこみあげてきて、胸いっぱいになりました。その時の「俺のやっている仕事って、こういうものなんだ」という気持ち、そしてあのおにぎりの味は一生忘れることはありません。

「電気屋さん、ありがとね。ごろうさま」

この言葉を一生の励みに、今後も高い使命感を持って、配電業務に従事していくつもりです。

◆「私の提言 第4回連合論文募集」入賞論文集より（別冊）

「CSR（企業の社会的責任）に関して労働組合のこれからを考える」
（普天間みほさん入選論文）

連合 第10回定期大会（2007.10.12）

「私の提言 第4回連合論文募集」運営委員会

「私の提言 第4回連合論文募集」入賞論文集

9月19日に開催した第2回運営委員会において、応募論文21編を審査の結果、入賞論文を下記のとおり決定しました。

本日の連合第10回定期大会で表彰するにあたり、入賞論文集を発行します。

1. 優 秀 賞 (50音順)

ふなだ よう いち
船 田 洋 一 氏 「パートタイマーの働きがいを高めるマネジメント」
(UIゼンセン同盟 イオン労働組合 関東ブロック執行委員長)

よしだ あさ こ
吉 田 麻 子 氏 「『女性の意識改革』×『労働組合の進化』＝『豊かな社会』
～より良い労働環境を目指して～」
(日本女子大学 家政学部家政経済学科 学生)

2. 佳 作 賞 (50音順)

すず き やすし
鈴 木 泰 氏 「市民活動と地域の労働組合－『新しい公共』をさがして－」
(自治労 八王子市職員組合 八王子自治研究センター非常勤研究員)

ひろ もと しゅう いち
広 本 秀 一 氏 「世代と時代の間の中で」
(自動車総連 ホンダロック労働組合 中央執行委員長)

やま もと ひろし
山 本 博 氏 「『指定管理者制度』に抗して－公共教育施設で働く労働者の想い－」
(全国一般 長崎地方本部佐世保合同支部 専門部長)

3. 奨 励 賞

ふてんま
普 天 間 み ほ 氏 「CSR（企業の社会的責任）に関して労働組合のこれからを考える」
(同志社大学 社会学部産業関係学科 学生)